

2016 年度 日本地理教育学会第 66 回大会

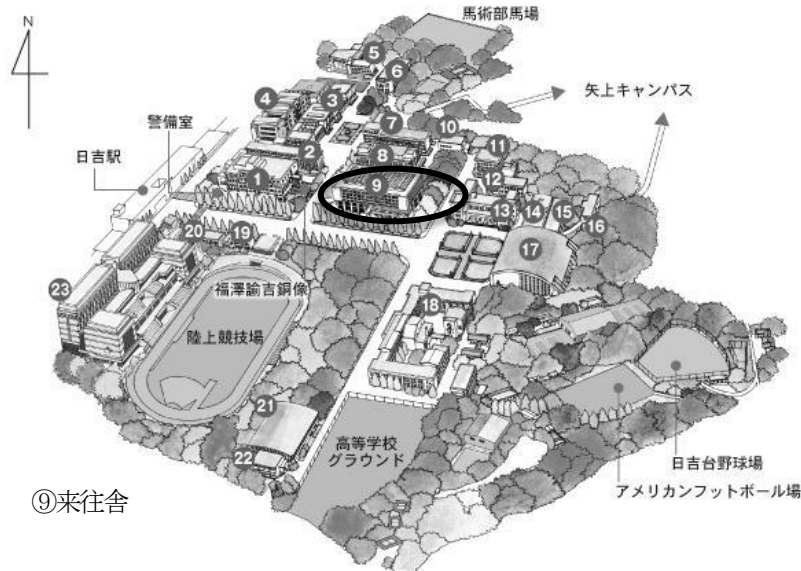
※大会には会員以外の方も参加可能。

●大会会場：慶應義塾大学日吉キャンパス「来往舎（らいおうしゃ）」

◇住所：〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

◇交通：東急東横線、目黒線、横浜市営地下鉄グリーンライン日吉駅下車5分

◇アクセス案内・キャンパスマップ



(URL:<http://www.keio.ac.jp/ja/access/hiyoshi.html> に加筆)

●日程：2016年8月8日（月）～9日（火）

◇8月8日（月） 一般発表（9:30～12:10）

昼休み <評議員会(12:10～13:00)>

シンポジウム(13:30～16:30)

総会(16:40～17:30)

※GISや新しい地理教材の展示・デモ(8日午前・午後17:50まで)

懇親会(18:00～20:00) 来往舎B1 ファカルティークラブ

◇8月9日（火） 一般発表（9:00～12:00）

巡検（13:00～17:00）徒歩・雨天決行

●費用

大会参加費：2,000円(要旨集含む) 懇親会費：5,000円 巡検参加費：1,000円

●大会組織

実行委員会委員長：太田 弘（慶應義塾普通部） 連絡先：mapota@keio.jp

●後援

横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、神奈川県教育委員会

●シンポジウム（1日目 13:30～16:30）

◇テーマ：地理教育が創るアクティブ・ラーニング

◇趣旨：次期学習指導要領改訂の方針の中で授業方法としてアクティブ・ラーニングが提唱されています。ひと言
で要点をまとめますと、「課題解決の自覚を抱いた学び」（主体的な学び）と「グループワークによる対話的
な学び」（協働的な学び）がアクティブ・ラーニングの二大要件とされます。本シンポジウムでは、小中
高等学校の各段階で工夫できる地理教育のアクティブ・ラーニングの授業実践を報告して頂き、参加者で地
理教育が創るアクティブ・ラーニングの在り方に関して論議を深めることができればと願っています。

◇登壇者：

- S1 内川 健（成蹊小学校）：社会科ワークシートの作成と活用の一考察—地理学習における教材開発の視点—
- S2 高橋 傑（慶應義塾普通部）：歴史学習のフィールドワークにおけるGISの活用
- S3 五十嵐和也（都立多摩科学技術高校）：ヨーロッパ地誌学習における協働型の授業実践—移民・難民問題に
着目して—

◇コメンテーター：濱野 清（文科省）・大西宏治（富山大）

◇オーガナイザー：寺本 潔（玉川大）

●一般発表1日目（9:30～12:10）

※ 1発表あたり（20分：発表15分・質疑応答4分・交代等1分）

◇第1会場（1日目）

- 111 9:30 籠嶋 迅（創価大・院）：地図を活用し、子どもの思考力を育てる授業実践—小学校第4学年「わた
したちの東京都と日本」の実践を通して—
- 112 9:50 吉田和義（創価大）：小学校生活科の町探検における地図の活用—知覚環境の発達に関連して—
- 113 10:10 田村英子（中央区立日本橋小）・田部俊充（日本女子大）：東京臨海部（中央区勝どき地区）における
小学校中学年児童の都市の知覚環境に関する一考察
- 114 10:30 酒井喜八郎（南九州大）：景観レポートと地図帳を活用したアクティブラーニング—小学校中学年地
域学習へのアプローチ—
- 115 10:50 寺本 潔（玉川大）：沖縄県石垣島の資源を活かした地域観光学習の試み—小学4年生を対象として
—
- 116 11:10 大矢幸久（学習院初等科）：探検活動の振り返り場面における電子黒板の活用とその効果—小学校2
年生活科「学校の近くの公園で遊ぼう」の実践を通して—
- 117 11:30 小谷恵津子（畿央大）：空間認識の枠組み作りに焦点を当てた小学校地図学習の改善—第4学年にお
ける縮尺と等高線の指導を通して—
- 118 11:50 伊藤直之（鳴門教育大）・戸田順一郎（佐賀大）・田中尚人（熊本大）・萩尾寿隆（前佐賀県小城市立
牛津小）：フットパスコースづくりを活用した地域学習—小学校におけるシビックプライドの涵養をめ
ざして—

◇第2会場（1日目）

- 121 9:30 有賀夏希（(株)東京地図研究社）・石川 剛（同左）：「凸凹地図」を用いた地図・地形のアウトリー
チ活動
- 122 9:50 塚田野野子（(株)東京地図研究社）・佐藤 慧（同左）・芝 佑介（同左）・太田弘（慶應義塾普通部）：

アクティブラーニングに使う「日吉キャンパスマップ」の製作について

- 123 10:10 芝原暁彦(産総研)・大道寺覚(ニシムラ精密模型)、太田弘(慶應義塾普通部):3D地形模型によるプロジェクションマッピングの地理教材の開発
- 124 10:30 田中博章(愛知教育大附属高):ICT(タブレット型PC)を活用し、カフェ形式を取り入れた授業開発
- 125 10:50 河合豊明(品川女子学院中・高)・太田弘(慶應義塾普通部):ヒロシマの被曝の実相を次世代に伝える平和ワークショップGISを活用した社会科のアクティブラーニングへの提言
- 126 11:10 石井俊道(館山市立北条小)・竹内裕一(千葉大):地域問題学習としての防災教育のあり方—千葉県銚南町における災害弱者をめぐる授業実践を通して—
- 127 11:30 小松卓也(福島大学附属中)・初澤敏生(福島大):中学校社会科地理的分野における生徒が主体的に学ぶ防災教育—福島大学附属中学校での実践から—
- 128 11:50 國原幸一朗(名古屋学院大):フィールドワークをふまえた防災の授業構想とその改善—GISの利用可能性—

◇第3会場(1日目)

- 131 9:30 菊地達夫(北翔大学短大):小学校教員養成課程における科目連携した地理巡検の実践と効果—教科に関する科目「社会」「理科」の内容として—
- 132 9:50 吉田裕幸(鷗友学園)・飯村諭(同左)・山本隆太(静岡大):地学の視点を取り入れた地理学習の意義—「ジオパーク」「土壌」をテーマにした地理Bの授業実践を通じて—
- 133 10:10 福田直(武蔵野大):教科横断型土壌教育の構築に向けた取組
- 134 10:30 今野良祐(筑波大学附属坂戸高校):フィールドワークを基盤とした多教科連携型野外実習の試み—地理教育の立場から見た「総合地球科学入門」の意義—
- 135 10:50 村田翔(広島大・院)・由井義通(広島大):イギリス初等地理教科書における環境地理学習の特質
- 136 11:10 志村喬(上越教育大)・S.ワディントン(アイルランド国立大学メイヌース校):日本の中学生・高校生(地理履修者/未履修者)の世界認識—日本とアイルランドの共同調査結果から—
- 137 11:30 蓮池理之(新座市立第四中):中学生の世界認識の実態と今後の世界地誌学習のあり方—世界認識に関するアンケート調査結果から—
- 138 11:50 加賀美雅弘(東京学芸大):ヨーロッパ学習における地名の複数言語表記についての検討

●一般発表2日目(9:00~12:00)

※1 発表あたり(20分:発表15分・質疑応答4分・交代等1分)

◇第1会場(2日目)

- 210 09:00 長倉守(静岡大):世界地誌学習のカリキュラムデザインに関する実証的研究
- 211 09:20 栗田明典(上越教育大・院/上越市立春日小):小学校社会科における世界地誌的学習に関する研究
- 212 09:40 藤永豪(佐賀大):四万十川下流域における漁撈活動と民俗知—川漁師の水域環境の認識と利用—
- 213 10:00 薬袋奈美子(日本女子大):人口減少時代に適切な土地利用を促す地理教育の提案—災害の履歴を踏まえた漁村集落を題材として—
- 214 10:20 鈴木允(横浜国立大):日本の人口問題を考える、高等学校地理B学習指導案—「日本—若い町」

の過去と未来の考察から—

- 215 10:40 木谷隆太郎 (東京学芸大・院) : 東京都杉並区高円寺駅周辺商店街の成長過程と機能分化
- 216 11:00 木村惟啓 (東京学芸大・院) : 立川市の都市再開発に伴うパブリックアート空間の創出と意味
- 217 11:20 吉田 剛 (宮城教育大) : 学習の内容的側面と方法的側面に機能する地理的概念の原理—地理的な見方や考え方との関係—
- 218 11:40 久保哲成 (兵庫県立柏原高) : 2つのジグソー学習をつなぐ仮説的知識の活用性について—イギリスと大陸ヨーロッパの文化的差異で南北アメリカ社会を読解く—

◇第2会場 (2日目)

- 220 09:00 なし
- 221 09:20 田部俊充 (日本女子大)・郭 明 (同左・院)・清永奈穂 (同左・院) : 中学校の「身近な地域の調査」における新旧地形図の活用—OHP フィルムを活用した GIS (地理情報システム) 入門授業の試み—
- 222 09:40 小橋拓司 (兵庫県立加古川東高) : 仮説検証型の野外調査—理数科課題研究における授業実践—
- 223 10:00 丹治達義 (筑波大学附属視覚特別支援学校)・佐野由貴子 (東京都立文京盲学校) : 特別支援教育における「地理A」カリキュラムの検討—視覚障害特別支援学校高等部における地理授業開発と実践を例に—
- 224 10:20 大谷誠一 (平塚市立金目中) : 中学校社会科における「身近な地域の調査」の実践—国際地理オリンピックフィールドワークテストの視点をもとに—
- 225 10:40 水野祐輔 (東京学芸大・院)・中村康子 (東京学芸大) : 高等学校「地理 A」における地図作業学習の分類—主題図作成力の育成に留意して—
- 226 11:00 杉山伸一 (大阪学院大) : 教職課程における地域調査実習の授業実践—地理を専攻としない学生を対象とした 90 分の試み—
- 227 11:20 吉水裕也 (兵庫教育大) : 教員免許更新講習におけるフィールドワーク・地図作成講座の実践と課題
- 228 11:40 岩本廣美 (奈良教育大) : 教員養成大学における地域の安全を扱う授業に関する—考察—「子どものための安全安心ボランティア」の実践を通して—

◇第3会場 (2日目)

- 230 09:00 なし
- 231 09:20 池下 誠 (練馬区立大泉西中) : ESD の視点を入れた中学校社会科地理的分野の評価の在り方
- 232 09:40 泉 貴久 (専修大学松戸高)・河合豊明 (品川女子学院中・高), 中村洋介 (公文国際学園中・高), 山本隆太 (静岡大) : 地理システムコンピテンシーに基づいた授業プランの提案—「地理総合(仮称)」を見据えて—
- 233 10:00 金 玟辰 (北海道教育大) : シンガポールの後期中等地理教科書における地理的探究に基づく学習の特徴
- 234 10:20 阪上弘彬 (広島大) : ドイツ 16 州における地理カリキュラム改革動向
- 235 10:40 清永奈穂 (日本女子大・院/株ステップ総合研究所) : イングランドにおけるナショナルカリキュラムの地理の動向と安全教育体験施設の現状と課題
- 236 11:00 青木邦勲 (日大豊山高・中) : 成績を上げてやる気にさせる授業を考える
- 237 11:20 澤 達大 (京都文教大) : 高校入試における日本地誌の出題状況に関する—考察—
- 238 11:40 三橋浩志 (文部科学省) : 「地理的な見方・考え方」を問う教員採用試験問題に関する地理学的考察

●巡検（2日目 13:00～17:00）

※会員の方で事前申込をされた方

◇テーマ：「アジア太平洋戦争末期 連合艦隊司令部 日吉地下壕見学」

◇見学地概要：慶應義塾大学日吉キャンパス地下にはアジア太平洋戦争末期、旧海軍が建設した地下壕が現在も残っています。1944年3月から建設が開始され、1944年9月には海軍連合艦隊の司令部が移転します。総延長2.6km、海軍軍司令部、施設部ほか多くの海軍施設が秘密裏の内に建設され、レイテ沖海戦、沖縄戦などの特攻作戦の指令がなされた場所です。戦後の歴史・平和教育の視点から現在も慶應義塾で管理されています。非公開の歴史遺産です。

◇案内者：安藤広道教授（慶應義塾大学文学部民族考古学教授）